

Dr.越知
不妊治療
誌上セミナー



masanori ochi
院長 越知正憲

藤田保健衛生大学卒。愛知県内の病院で経験を積み、最新設備と最先端技術を持つ同院を開院。名古屋地区で最大規模の不妊治療専門クリニックとして、身体にやさしい治療を続ける一方、藤田保健衛生大学客員講師も務めている。

第11回

不妊治療に伴うストレスを
徹底したケアで取り除く

不妊治療は、精神的にも肉体的にも患者の負担が大きいもの。その負担減に向けた『おち夢クリニック』の取り組みを紹介する。

自宅で打てる自己注射
通院の精神負担を解消

前回は「不妊治療には年齢的な限界があるので、妊娠を望む人は早めの相談が大切」という話を紹介した。では、実際にどんな治療が行われ、どのくらいの頻度で通院しなければならぬものなのだろうか。

患者にとって不妊治療は精神的にも、肉体的にも負担がかかることは事実。その負担を軽減するためにも「目の前にいる方が自分の妻や娘だったらこの治療を行えるだろうか」と考え、体によさしく、1人ひとりに合った適切な治療を心掛けています」と「おち夢クリニック」の越知正憲院長は語る。

実際には、検査や排卵誘発剤などの薬の使用、場合によっては体外受精なども行うことになるが、自然妊娠を目指し、不

必要な治療は行わないのが同クリニックの方針。また、治療時には、きちんと内容を説明し、同意を得た上で慎重に進めている。

患者にとっては、通院すらも負担になるという。2週間のうち4回も5回も受診しなければならぬケースもあるし、注射を打つためだけに病院へ行かなければならぬケースもある。そうだとしたら負担を減らすために取られている対策のひとつが排卵誘発剤の自己注射。操作が簡単で、患者本人が自宅でも打つことができるものだ。看護師長の小野雅子さんはこう語る。「糖尿病の方のインスリン注射のようなものです。針が細く、痛みはほとんどありません」。駅からすぐ近くにあるのも、通いやすさを考えてのもの。患者の負担を減らすための配慮は、細部にまでわたっている。

1. 排卵誘発剤の自己注射の使い方を丁寧に説明する小野看護師長。2. 自己注射は説明書がついているので、不安なく取り扱うことができる。3. ストックラウンジでは、自由にパソコンを使用して情報チェックが可能。



おち夢クリニック名古屋

おちゆめクリニックなごや

DATA

- ☎052-968-2203
- 📍名古屋市中区丸の内3-19-12 久屋パークサイドビル8F
- 🕒月～木/10:00～12:00 16:00～18:30、金～日・祝/10:00～12:30
- 🚫無休 📞自由診療は人工授精¥15,750～
- 📞不可 📞なし
- 🚶地下鉄名城線・桜通線久屋大通駅2A出口より徒歩1分
- 📄要予約 🌐www.art-ochi.com